

V 臨時的調査研究（1） ヒノキコンテナ苗の生育実証調査

（実施期間：平成 29 年度～ 予算区分：県単課題 担当：富森加耶子・谷口公教）

1 目的

鳥取県内ではスギコンテナ苗の生産体系はまとまりつつあるが、ヒノキは県内の苗木生産者がそれぞれに異なるコンテナ苗を生産している。そこで、ヒノキのコンテナ苗と裸苗を植栽し、各苗種の特徴や植栽後の成長への影響を把握する。

2 実施概要

（1）方法

①地上部と地下部の形質比較：根鉢容量の異なるヒノキコンテナ苗2種類（300cc、150cc）と裸苗2種類（2年生、3年生）を地上部（葉、側枝、主軸地上部）と地下部（根、主軸地下部）に切り分け、80℃のドライオーブンで72時間乾燥し、重量を計測した。

②樹高と直径の成長：鳥取県林業試験場の裏山、標高90m地点の北向き斜面（平均傾斜33°）に面積約0.2haの試験地を設定し、平成29年11月下旬に各苗種を植栽し、樹高と地際直径を計測した。

①、②ともに植栽1年経過後の平成30年秋に再度調査を行い、植栽前後で比較する予定である。

（2）結果

コンテナ苗より裸苗のほうが、地上部・地下部ともに大きく充実し（図1）、直径が大きく太い苗であった（図2）。コンテナ苗の300ccと150ccとの間に顕著な特性はみられなかった。

3 結果の図表と研究の様子

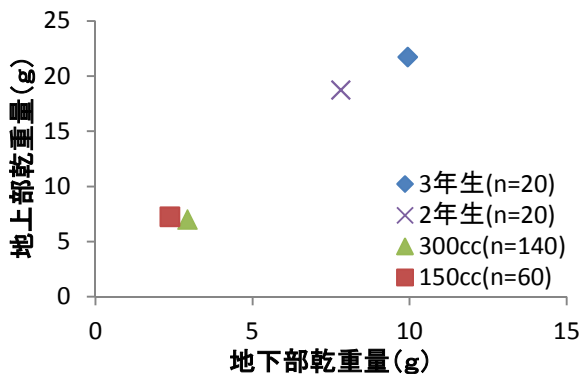


図1 植栽前の地上部と地下部の乾重量

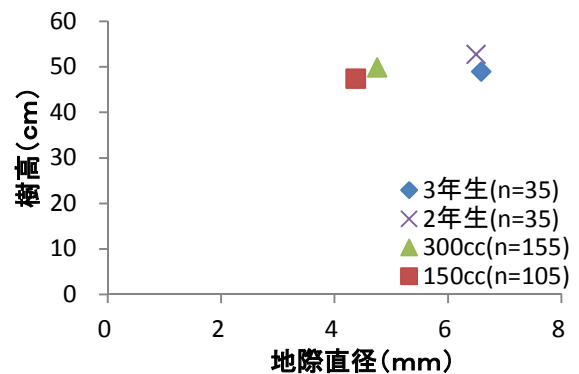


図2 植栽時の樹高・地際直径



図3 植栽の様子



図4 植栽したコンテナ苗